

大宮西地区

湧玉池

湧玉池は、玉が湧くように水が湧く様子から名付けられたと考えられており、もとは上流を湧玉池、下流を御手洗川と呼びました。

昭和12(1937)年に「史蹟名勝天然紀念物保存法」の天然紀念物に仮指定されると、上流を上池、下流を下池、合わせて「湧玉池」と呼ぶようになりました。



▲上池(湧玉池)



▲下池(御手洗川)

歩く博物館 H西コース<大宮西地区>
旧大宮町西地区をめぐるコース

市役所6階文化課、郷土資料館(文化会館内)、出張所または市公式ウェブサイトなどにあります。

HP トップページ>市民の皆さんへ>教育・文化・スポーツ>郷土資料館>歩く博物館



出張展示 「富士山振興の拠点となる湧水」

-湧玉池が育む豊かな生態系-

時 11月1日(金)~7日(木) 所 市役所1階市民ホール

室町時代以降、庶民の富士参詣^{さんけい}*1が盛んになると、御手洗川は参詣者の水垢離^{みずごり}*2をする場所として使われました。

戦国時代、今川氏真^{うじざね}*3が書いた定書^{さだめがき}*4に「下池は日常的な洗い物などで汚してはいけない場所、上池は生き物を殺して穢^{けが}してはいけない場所」と書かれているほか、江戸時代に描かれた境内図に、上池に影向石(神仏が降り立つ石)が描かれていることから、富士山の神を祀る浅間大社の信仰において、湧玉池がとても重要な場所であったことがわかります。

※1 富士山に登り修行やお参りをすること

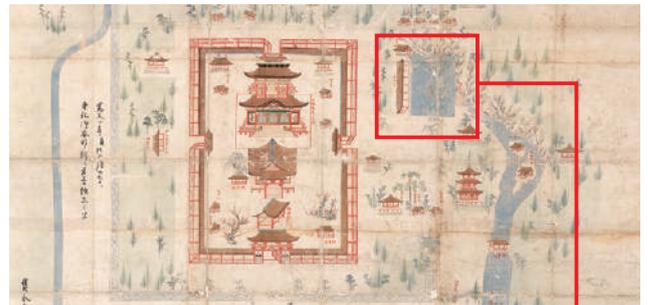
※2 心身を清めること

※3 今川氏12代当主の戦国大名

※4 戦国大名が出した法令や規則



▲室町時代に描かれたとされる絹本着色「富士曼荼羅図」(国重要文化財・富士山本宮浅間大社蔵)



▲浅間大社境内絵図写 (富士山本宮浅間大社蔵)

